

■□ 第3回トキの野生復帰に向けた川づくりアドバイザー会議概要 □■

■開催日時：平成24年7月4日(水) 13:30～15:30

■開催場所：トキ交流会館 大ホール（新潟県佐渡市新穂潟上1101-1）

■出席者（学識経験者）

氏名	所属	専門分野
尾崎 清明	公益財団法人 山階鳥類研究所 副所長	生態学（鳥類）
◎関島 恒夫	新潟大学大学院 自然科学研究科 准教授	生態学（動物行動）
藤田 光一	国土技術政策総合研究所 河川研究部 部長	河川工学
陸 旻皎	長岡技術科学大学 環境・建設系 教授	河川工学

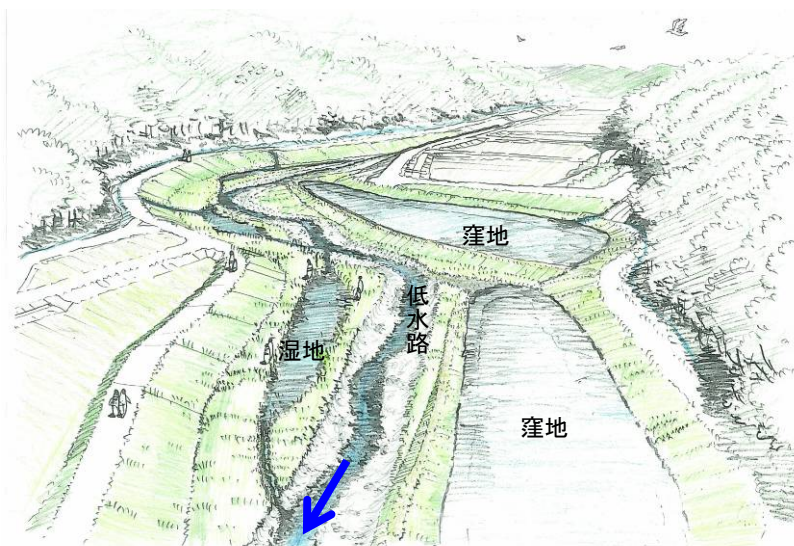
※五十音順、◎は座長

■議事内容

- (1) これまでの事業進捗状況の報告
 - 1-1 これまでの事業にかかる会議開催状況
 - 1-2 現地施工のモニタリング結果
 - 1-3 最近のトキに関する情報提供
- (2) 地域住民との話し合いによる天王川
自然再生計画の推進
 - 2-1 中流部計画（案）
 - 2-2 河口部計画について
 - 2-3 座談会及び住民説明会の結果報告
- (3) 今後のスケジュールについて



■天王川中流部計画再生 イメージパース



天王川中流部 現況

■出席者から出された主な意見

最近のトキに関する情報提供

- ◆中国のトキが利用している川について、河床勾配を教えてください。また、草丈が低くなっている理由について教えてください。
- ◇勾配は比較的緩やかで、上流に貯水池があり、常に流れがあった。草丈については、牛の放牧により草丈が管理されている。また、氾濫によって草丈が抑えられている可能性もある。
- ◇中国では一般的に農家が下草を利用するなど、人圧がかかっていることも要因と考えられる。

◆：意見

◇：会議中における回答内容



中流部計画（案）

- ◆河道拡幅により治水上、安全側になるということだが、拡幅や窪地によりどれくらいピーク流量が軽減されるのか。
- ◆大きな洪水においても整備しないときよりも悪くはならないことを確認すべきである。5年に1度の規模よりも大きい洪水の場合、窪地は満杯になるが、その際に川沿いの水位が川に対してどのような勾配になるのか。窪地の水位が高くなっていった場合、最終的にはどのようなようになるのか。窪地と低水路の水位はどれくらいの比高が生じるのか。川沿いの縦断図を整理した上で前述の検討をする必要がある。窪地の規模が大きいいため、基本的な方向性を判定する際にも大きな洪水でどのようなことが起こりうるかを早めに整理し、その後詳細検討していく必要がある。
- ◇流量規模別の水理計算を実施しているが、ご指摘された観点の検討は、詳細検討時に検討し、アドバイザー専門会議等で助言いただきながら進めていきたい。
- ◆中流部計画箇所は、雪があるときに重要な役割を果たすことが考えられる。雪対策は考えているのか。湧き水による融雪が期待されるが、川の形状を改変すれば地下水面は変わる可能性がある。調査・検討をしていけばその結果を教えてください。
- ◇雪対策は検討していなかったが、地下水が高く、湧水もあることから、融雪は期待できると考えている。周辺の地下水への影響については、施工する際にまず小さい範囲で掘り、確認しながら施工を進めていきたいと考えている。
- ◆窪地や湿地を整備することにより形成される水面は地下水等も考慮するとどのようなようになるのか。水面の形成状況の確認方法は、掘り下げながら見ていくことも重要であるが、事前に解析等により見通しをもっておいた方がよい。また、地下水が仮にこの高さになった場合は水深や餌場がどうなるのか等、詳細を確認する必要がある。
- ◆計画河床高で平均粒径 2mm の場合、洪水により流れやすい土砂である。洪水で過度に流出しないようにするためには、砂利の敷き方に工夫が必要である。イメージとして川底の表層が礫の川にする必要がある。粒径が大きい層を活用する方が無理がないと思う。
- ◆トキは泥の中の餌を食べるため、川底が見え、河床が砂礫であるような環境は採餌に適

さない。泥がどれだけ貯まり、どのような生物が生きることができるか季節的な変動も重要な要素になる。整備した後で状況に応じて修正整備をするプロセスを計画に組み込んでもらえるとうい。

河口部計画

- ◆河口部計画にかかる今後の進め方について、事務局案は特に問題ないと感じている。透過性の堤防を設置すれば河口部の流れは変わるため、検討をさらに進める場合は、実際の流れがどうなるかを技術的に評価し、判断する必要がある。

座談会及び住民説明会の結果報告

- ◆潟上水辺の会では、天王川でホタル祭りを平成 16 年から開催し、当時は非常に多くのホタルがみられたが、年々減少している気がする。久知川ではホタルが見えなくなり、ホタル祭りを中止していると聞いている。久知川では魚等が移動しやすいように構造物の落差解消の工事が行われているが、この工事とホタル減少の関連性はあるのか。また、天王川のホタルを確認しているところは施工対象区域とずれているが、天王川の工事によるホタルへの影響について、事前の評価や対策等の検討をしていただきたい。ホタルの保全活動は現在実施していないが、できることがあれば教えて頂きたい。
- ◆ホタルは川に関心をもつきっかけになる重要な存在である。ホタルが減少している状況下で具体的な保全対策が盛り込まれなければ、ホタルが消失する可能性がある。河床の土砂がホタルの保全に重要な要素である場合、治水との両立は難しい。地域住民の方々と何を優先すべきかの議論を通して検討していく必要がある。今後のアドバイザー会議や座談会で検討していけるとよい。

今後のスケジュール

- ◆全体のタイムスケジュールについて、年度の区切りの位置を教えてください。また、施工について、生物への影響軽減に係る検討をいつまでに実施する必要があるのか。
- ◇平成 24 年度中に第 4 回アドバイザー会議を開催することを目標として考えている。工事は平成 25 年度以降の実施を考えている。
- ◆工事着工後の計画案へのフィードバックについて、プロセスが分かりづらい部分もあるため工程表に整理していただきたい。
- ◆詳細設計後の座談会では、計画案に対して意見がでてくることが想定されるが、地域の方が安心でき、生息環境としても十分効力を発揮するものを議論するために、河川工学のアドバイザーにも参加していただけるとよい。
- ◆本日、国府川、久知川、天王川における試験施工結果の報告があったが、この結果を今後反映させることが重要である。佐渡の河川計画に今回の結果を環境への配慮事項として組み込んでいただきたい。